

「二つのアルプスが輝く 大地と人を育む上伊那の農業・農村」

[4] 上伊那地域の整備方向

地域農業の特徴と農地の整備状況

○ 地域農業の特徴

農地は、天竜川及び三峰川の沿岸に広がる水田地帯と、西部に広がる畑地帯に大別されます。

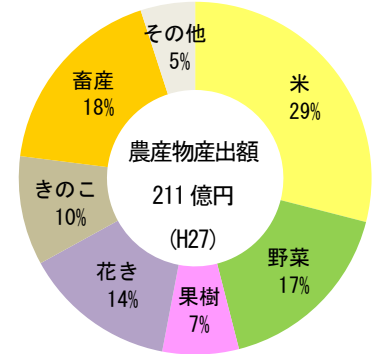
<水田地帯>

県営かんがい排水事業等により、昭和初期から農業水利施設の整備が進められ、安定した農業用水が確保されてきました。

また、昭和40年代から広範囲で行われた県営ほ場整備事業により、農業生産性の向上が図られました。

<西部畑地帯>

昭和40年代から50年代にかけて、国営かんがい排水事業や県営畑地帯総合土地改良事業により、畑地かんがい施設が整備されました。ここでは、野菜や果樹、畜産を中心とした農業が展開されています。

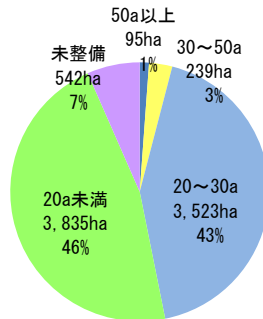


○ 農地の整備状況 (H28実績)

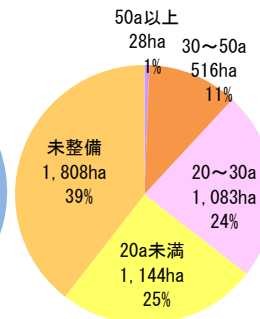
水田整備率は93.4% (県平均84.1%)、畑地整備率は60.5% (県平均34.6%)、畑地かんがい施設の整備率は56.0% (県27.0%) に達し、県平均の整備率を大きく上回っています。



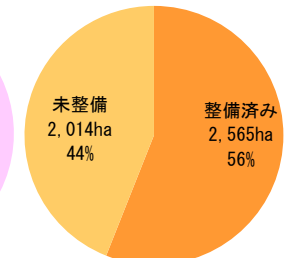
【整備率が高い飯島町の水田】



【水田整備】



【畑地整備】



【畑かん整備】

○ 基幹的農業水利施設の整備状況

基幹的農業水利施設(用排水路の延長)は187kmに及び、農地の66%にあたる8,508haがその恩恵を受けています。

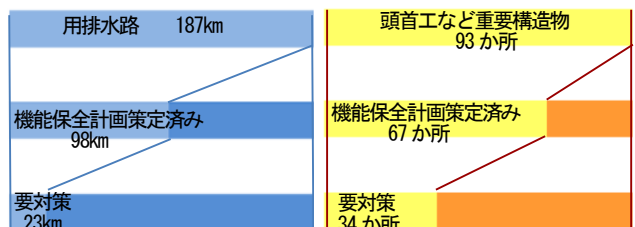
農産物の安定生産に不可欠な農業水利施設ですが、その多くが耐用年数を迎つつあり、機能低下に伴う維持管理費用や労力の増加は、施設管理者の大きな負担となっています。

このため、長寿命化計画(機能保全計画)を策定して更新整備を計画的に進めることとし、費用負担の平準化とライフサイクルコストの低減を図ります。

【基幹的農業水利施設の一覧】

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)	水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
延長・箇所	187	22	20	12	26	12	1
機能保全計画	策定済み	98	6	19	9	21	1
	要対策	23	2	5	3	18	1

【基幹的農業水利施設の状況】



地域の現状と課題

- 農産物の安定生産と品質確保のため、耐用年数を迎いつつある西天竜幹線用水路などの基幹的農業水利施設の更新整備を計画的に進める必要があります。
- 担い手への農地集積や大型機械の導入による農業生産性の向上を図るため、農地の大区画化や農業水利施設の更新整備を進める必要があります。
- 地震による損傷や第三者への被害を防止するため、高速道路を跨ぐ水路橋やため池の耐震化を進める必要があります。
- 豪雨による被害を防止するため、ため池や通水機能に支障が生じている水路の改修を進める必要があります。
- 交通量の増加や老朽化により損傷した、辰野町と飯島町を結ぶ広域農道の長寿命化を進める必要があります。
- 農地の多面的機能の維持・発揮に向け、取組が遅れている畑地帯での活動面積の拡大や新たな活動組織の設立に向けた支援が必要となっています。



【老朽化が進む三峰川右岸幹線導水路（伊那市）】



【水路橋の耐震補強のための点検作業（伊那市）】

施策の展開方向

I 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進

達成指標

現状（2016年度） → 目標（2022年度）

○農業用水を安定供給するために
重要な農業水利施設の整備箇所数

—

7 箇所

整備方向

- 農産物の生産に不可欠な農業用水を安定的に供給するため、西天竜幹線用水路の隧道補修など基幹的農業水利施設の長寿命化計画（機能保全計画）に基づく対策を計画的に進めます。
- 駒ヶ根市南部に広がる未整備ほ場の大区画化や担い手への農地集積・集約化など、担い手の意向や地域の実状を踏まえた基盤整備を進め、農業生産性の向上を図ります。
- 農地中間管理事業の重点実施区域等において、市町村等が実施するきめ細かな基盤整備を支援します。



【更新整備した春富5号水路（伊那市）】



【生産性向上に寄与する大区画水田（駒ヶ根市）】

II 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

達成指標

現状（2016年度） → 目標（2022年度）

○地域ぐるみで取り組む多面的機能を
維持・発揮するための活動面積

6,003 h a

7,826 h a

整備方向

- 農地の多面的機能の維持・発揮を図るため、農業者等が協働して取り組む地或活動や、地或資源の質的向上を図る活動を支援します。
- 市町村や活動組織と連携し、活動面積の拡大や新たな活動組織の設立、事務負担を軽減するための広域化や事務委託等の取組を支援します。
- 地震による第三者への被害を防止するため、高速道路や鉄道を跨ぐ水路橋とため池の耐震化を計画的に進めます。
- 豪雨による決壊等の被害を防止するため、機能が確保されていないため池や、流域開発による排水量の増加などで通水機能に支障が生じている用排水路の改修を計画的に進めます。
- 農村地域の農業振興や農産物輸送の効率化、地域間交流を進めるため、辰野町と飯島町を結ぶ広域農道の長寿命化や安全対策を進めます。



【地域ぐるみで取り組む水路の維持管理（辰野町）】



【改修が完了した深堤ため池（中川村）】

III 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

達成指標

現状（2016年度） → 目標（2022年度）

○新たに観光資源として環境整備された
疏水等の箇所数

—

3 箇所

整備方向

- ため池等の農業資産を地域学習や観光資源として活用するため、市町村や施設管理者が行う、安全施設や案内看板等の環境整備を支援します。
- 「農業用水探検隊」の開催を通じて農業資産の魅力を発信し、ふるさとに愛着と誇りを持てる人材の育成に取り組めます。
- 農業水利施設の維持管理に係る施設管理者の負担軽減を図るため、農業用水を活用した小水力発電施設の建設を支援します。



【観光資源として活用されている八乙女の水路橋（箕輪町）】

農業用水を活用した小水力発電施設の建設

伊那市春富土地改良区が管理する春富6号水路は、一級河川新山川から取水し327haの水田を潤している延長約3kmの幹線用水路です。

築造から40年余りが経過し、老朽化による破損や漏水が著しいため、用水の安定供給と維持管理の効率化を目的として、平成26年度から県営かんがい排水事業による更新整備を進めています。

その一環で、土地改良区の安定した運営を目的として、農業用水を活用した小水力発電施設を建設しました。土地改良区が管理する電動ゲートの電気代のほか、土地改良施設の維持管理費に発電の収益を充てることで、負担の軽減が期待されます。(最大出力197kW)



【地域の小学生に発電所の概要を説明】



【稼働した春富水力発電所】

農業資産の魅力発信 ～農業用水探検隊～

地域の小学4年生を対象として、農業水利施設の歴史や役割、農業の大切さを学習する「農業用水探検隊」を平成19年度から開催し、平成29年度までの11年間で、伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村の7校(延べ2,250人)が参加しました。

市町村や上伊那郡西天竜土地改良区、長野県伊那西部土地改良区連合と協力し、西天竜幹線用水路の円筒分水工の仕組みや、伊那西部第1揚水機場等の役割を学んでいます。

引き続き、地域の将来を担う子どもたちに、農業資産の魅力を発信していきます。



【円筒分水工のしくみを学ぶ小学生】



【揚水機の役割を学ぶ小学生】